

後進国が支配する韓国

新井 宏

韓国に通いだして六年になるが、その間、個人的に「反日感情」で、不愉快な想いをしたことは一度もない。私が鈍感なことは有り得るが、特に心が寛いというわけではない。この不思議さをどう理解すべきなのか、常に心にかかるテーマであった。

そして得た結論は、もはや韓国の先進国部分は、決して「反日」などでは有り得ないとの認識である。それは韓国の先進国部分が決して「反米」ではないのに、盧武鉉政権が最も「反米的」であることに象徴される。

急成長した韓国は、先進国と後進国で成り立っている。しかも、後進国代表の盧武鉉大統領が先進国部分の上に乗っている構図であるから、外交、政治、経済がうまく行くはずがない。いまや盧武鉉大統領の人気は地に堕ちている。

反日より強い反米

盧武鉉は釜山の商業高校出身で、弁護士を経て、政治家になった人物である。政治的には韓国の先進国化を主導した軍事政権や大企業とは対極にあり、韓国の後進国部分に軸足を置く。

そう思ってみると、後進国部分の反米感情は反日感情よりもむしろ強いように見受ける。大学構内では、反米のポスターは見たことがあるが、反日のポスターは一度も見てない。それなのに、マスコミで反日が強調されるのは、植民地支配とか、従軍慰安婦とか、教科書とか、竹島とか、わかり易い題材が豊富にあるからに違いはない。

歴史を逆転する韓国

そもそも、盧武鉉大統領が誕生しなければ、時代に逆行するような反日は起こらなかったであろう。「愚者」

を仕立てて自己を正当化するのを常套手段としてのし上がっただけに、反日は絶好のカードであった。そのためには日本は悪者でなければならぬ。

政治力学で言えば、盧武鉉は間違いなく韓国の後進国部分を代表して、先進国部分を攻撃している。韓国はわずか二十年ほどで先進国化を遂げたため、未だ後進国部分を多く抱えているが、後進国部分が攻撃側に回ると、正義を装い、学生層の人気を獲得する。しかし、この歴史逆転が長続きするはずもない。馬脚を現し学生層はいまや冷め切っている。

十パーセントを割った盧武鉉の支持率

先日、ある講演会で、盧武鉉大統領の支持率は明日にも二十パーセントを割るだろうと断言した。それからまだ二ヶ月にもならないのに、支持率はついに十パーセントを割り込んでしまった。イラク問題で苦境に立つブッシュ大統領でさえ、まだ二十パーセント台を維持している。まさに絶望的な状況である。

もともと日本でも宇野内閣と森内閣の時に、支持率が十パーセントを割り込んだ例がある。いずれも即刻変えられてしまった。しかし、韓国は異なる。大統領の任期は五年間で、まだ一年余も残っている。しかも、立法、司法、行政の三権の上に立つ強大な権限を持つ世界でも特異な大統領である。大統領が絶望的な状況にあるので

なく、韓国が絶望的な状況にあるのである。

反日発言で瞬間的に上がる支持率

そもそも盧武鉉は、先進国部分の腐敗を攻撃し、政権についた人物である。軍事政権以来、先進国化を担った大企業などは、政権との癒着、賄賂、同族支配などの汚い面を抱えていた。したがって、この恩恵に与かれなかった後進国部分は、この汚い部分に批判を集中する。徒手から大統領になった人物だけあって、攻撃や人気取りには長けている。

だから、不人気になると「日本たたき」を行い、瞬間的に十パーセントほど支持率をあげる。しかし、また間もなく支持率が十二パーセント下がるということを繰り返してきた。人気取りをすれば、その反動が大きいのは当然であるが、後進国部分と共鳴する人気取りは、もはや先進国化した韓国の実情には合わず、時代錯誤的なのである。特に、外交問題を国内の人気取りに使えば、国益を損なうのは世界の歴史が示すところである。

オーバーランする韓国

韓国では、日本で祖父母と曾孫の世代間で変化したことを親子の世代間で変化させている。急変貌する姿は、一部で日本の先を行くほどのオーバーランを呼んでいる。例えば、少子化を示す特殊出生率は一・〇九人で、

日本の一・二九人を追い抜き世界一位である。伝統的に世界一を誇ってきた日本の自殺率を、韓国がついに追い抜いた。離婚率も二十年前より一桁高くなり、日本を越えている。大学進学率は日本よりもはるかに高く七十パーセントに達する。先進国化は経済分野だけではないのである。

韓国を逃げ出す韓国人

もつとも、大学の質はOECD六十ヶ国で最下位なので、誰もが外国に留学したがる。米国の統計によれば、韓国からの留学は家族同伴を含めて十万人にも達し、二、三位の中国やインドの倍近くもいる。もちろん日本からの留学生よりもはるかに多い。この他にも、日本やヨーロッパへの留学も非常に多いのだから、人口比を考えると間違い沙汰である。

留学ばかりでない。遠征出産と称し、米国で子供を生んで市民権をとることが大流行している。カナダへの移民権が商品化されて人気を呼んでいる。だから、韓国の先進国部分は、後進国部分の韓国から逃れたがっているのである。

知り合いの教授たちの家族がみんな米国暮らしをしていて、一人さびしく暮らしをしているのを見れば、韓国の「愛国心」など後進国部分にしか残っていないと思える。先進国部分は民族主義とはまったく次元を異にし

ているのである。

先進国の大企業と後進国の中小企業

経済ではサムソンやLGグループ、現代グループ、ポスコなどが世界企業入りしている。高速道路は日本よりも快適で、IT環境も良く整備されている。だから、韓国の先進国部分は、間違いなく世界水準を越えている。ところが、この先進国化について行けない後進国部分が、韓国の影となっている。農業はもちろんであるが、低賃金を武器としてきた中小企業は、中国に対抗できないばかりか、技術的にも日本に追いつけず喘いでいる。サムソンなどの世界的な企業は、良質な部品を日本に求めるので、中小企業はますます苦境に陥る。韓国の貿易収支は、輸出が増えれば増えるほど、日本からの輸入が増え、対日赤字が膨らむ構造である。しかも、そこに、ほとんど全員が大学を卒業する現状がある。大企業に就職できるのはごく一部である。だから、中小企業のホワイトカラーが大企業のブルーカラーになりたがる。

後進国部分を代表する盧武鉉

軍事政権以来、先進国部分を引張ってきた大企業は、政権との癒着、賄賂、財閥支配など汚い面を抱えていた。後進国部分は、この先進国部分に批判を集中する。特に学生たちは、若さによる正義感から先進国部分の汚さを

攻撃する勢力に同調しやすい。これをアジって政権を獲得したのが盧武鉉である。盧武鉉は大学を出ていないし、大統領になるまでに外国を訪問したこともない。いわば後進国部分の代表なのである。

しかし韓国の現実には完全に先進国部分にあり、もはや後進国部分に同調した国政運営などできない。第一、後進国部分が先進国部分の上に立てば、先進化を支える経済が巧く行くはずがない。企業への規制が強化され、ストが必要以上に多発し、資本は海外に逃げ出す。だから今、大学出の若者の職場は、絶望的なほど狭き門である。新聞がそれを書き立てると、若者たちも正義感などとは言っていられない。働き場が増えないのは政府のせいだと確信しはじめている。

権力欲の強い民主化運動者

一般的なことだと思うが、民主化運動を指導する者が民主的だということではない。むしろ、権力に激しく逆らうものは、権力欲が強い。だから、いったん政権を握ると妥協を排し、独善的に権力を行使したがる。

もともと、所得格差を解消しようとする政策は、経済的に豊かな層を抑制し、困窮層に恩恵を与えるはずであった。しかし、狙いとは逆に所得格差がどんどん拡大している。経済成長が止まり、働く場がなくなると真っ先に影響を受けるのは貧困層である。その中で、福祉に手

厚くすれば、先進国化する前に、先進国病にかかってしまう。

本来、政治や外交というのは利害の調整の場である。異なる階層、地域、老若、男女、宗教、文化の利害を如何に妥協させて行くかが課題なのに、そこに偏屈な理想や原理を持ち込めば、対立が激化して混乱に至るのは当然のことだ。権力欲が強い理想主義者、原理主義者は、なまじ正義感があるだけに柔軟さに欠ける。幼稚な正義感ほど始末に負えないものはない。汚職は国を滅ぼさないが正義は国を危機に陥れる。

独善のアマチュアリズム

権力志向の原理主義者達は、不動産価格でさえ、権力でコントロールしようとする。机上の理屈で、税制を利用し、規制によって不動産投機を控えさせようとするが、それはかえってアパート建設の抑制に繋がりが、ソウル江南のアパート価格を暴騰させてしまった。

事態を收拾しないと政権が持たない。不動産特別対策を大小とりませ、三十回も発表するが、その右往左往ぶりが、また海千山千の業者につけこまれていく。過去の知恵を活用する方法を知らない独善的なアマチュアリズムは、狙いとは逆の結果ばかり出している。

その上、権力の座に就くやいなや、腐敗を攻撃して中樞に登ったスタッフ達が次々に汚職にまみれる。六親等

までが親戚の韓国では、友達の友達に友達である。ツテを頼りに群がる業者に手も無く捻られ汚職に染まっている。

小学唱歌を歌う老人の青春

そもそも、韓国で反日が強烈になったのは、戦後の教育を通じてである。だから、日韓併合期の教育を受けた老人の世代は、いわば当事者として差別の実態を良く知っているが、さほど反日的ではない。

それは、李氏朝鮮、日本併合期、朝鮮戦争と並べてみれば明らかのように、一九七〇年代までは、日本併合期がもつとも豊かであったからである。反日よりも、朝鮮戦争による反共が強烈な世代である。建前は別として、実感は反日ではなく反共の世代なのだ。だから、小学唱歌は彼らの青春であり、時に大合唱をはじめ、私を驚かすことになる。その中には軍歌もあるし、戦後の美空ひばりや都はるみの歌謡曲もある。厳禁されていたはずなのに不思議な話だ。

逆転した日韓の観光収支

一方、若年層は誰もが大学に行く時代である。純粋培養された反日教育を、日常体験として確認できる世代ではない。日本を旅行すれば、オニのはずの日本人が、韓国人よりも遥かに親切に見える。韓国を訪れる日本人

は、概して韓国人よりも礼儀正しい。留学や旅行、映画・芸能や職場生活を通じて日本の多様な世界を知れば、もはや単純な反日など恥ずかしくて唱えていられない。

この雰囲気は、明治維新期の日本に似ている。もともと攘夷を建前としていた明治政権が、岩倉具視の欧米使節団により、一気に文明開化に走り出し、鹿鳴館時代を迎えたように、世界に目を開けば、攘夷や反日などの民族主義はもろくも崩壊してしまう。

つい最近のニュースでは、日韓の観光収支が逆転したことを伝えている。経済規模で比較すれば五倍以上の差のある両国間で、収支が逆転したということは、いかに多くの韓国人が日本に向かっているかの証拠である。日本は米国につぐ憧れの対象で、読売ジャイアンツの李承燁は大リーグのイチローや松井なのである。ブッシュの率いる田舎者の米国は嫌いでも、米国人は好きだと言えば、わかり易いだろうか。

いきり立つのは馬鹿にされた時だけ

そんな韓国でも時に反日で沸きあがることもある。それを「いつまでもしつこく過去のことを恨んでいる」と受け取ると間違いだである。そうではなく、彼らが、いま現在、日本に馬鹿にされていると感じた時に、いきり立つのである。そもそも、彼らの偏狭な論理で過去の問題を声高に言えば、日本がまともに対応するはずがない

のに、自分で種を撒いておいていきり立つ。これを意識して利用したのが盧武鉉である。

盧武鉉大統領が独立記念日に、はじめて反日の狼煙を挙げた時、小泉首相が「支持率目当ての国内向け発言でしよう」と軽くないした。これが盧武鉉を激怒させたのをご存知であろうか。ぐざりときたのである。

従軍慰安婦は恥ずかしい

従軍慰安婦問題と言えば、反日の定番である。靖国神社問題でギクシヤクする中で、小泉首相が韓国を訪れた日、日本のテレビも、日本大使館の前の慰安婦抗議デモを大々的に流していた。派手にやっていると思うとこれも大間違いである。韓国の新聞はそつと五十人のデモだったと伝えている。

もうエネルギーが枯渇しているのである。第一、韓国にとつても不名誉な従軍慰安婦問題を、いつまでも騒ぎ立てていることに恥ずかしいと思ひ、うんざりしているのが先進国部分の韓国なのである。

様子の異なる竹島問題

ただ、ちよつと様子が異なるのは竹島問題である。このことだけは未だ先進国になれないでいる。近代国際法にもとづけば、おそらくハーグ国際司法裁判所で日本が勝訴するだろうと私が言うとはびっくりする。領土問題に

関しては、どの国の新聞も国粹主義者になるから無理もないが、それにしても何も知らない。テレビ放送の開始時に、国歌や大極旗と共にかならず放映される竹島には、理屈以前の国民感情移入があるのだろう。

しかし、その竹島問題でさえ、若干の変化が見られる。盧武鉉大統領が竹島を基点として、漁業専管水域を設定すると言いつ出した時のことである。もし、その論理が通るなら、日本が同じく無人島の鳥島を基点に韓国側に専管水域を拡大できる。そんな警戒もせず、提案を出す盧武鉉政権の愚かさ加減を流石に新聞が咎めた。

第一、竹島は韓国が実効支配している。実効支配している側は、受けて立つことはあつても、自分から仕掛けるなど、外交では常識外の行動である。韓国が騒ぐと、紛争地域であることが国際的に知れ渡るだけ、日本の政府が喜ぶのが現実である。かくして、ポピュリズムとアマチュアリズムが韓国の国益を損なっている。

嘲笑をかう韓国の歴史観

さて、韓国の後進国部分である。はたして、歴史的に見て李氏朝鮮はどんなような発展段階にあつたのであろうか。日韓併合がなくとも、今日の発展が可能であつたと考えたがるのが韓国である。しかし、欧米の学者たちの見方は概して韓国に厳しい。学問の世界では「オレンジ畑でリンゴを探す」行為として嘲笑を買っているので

ある。

嘲笑と言えば、盧武鉉大統領がライス国務長官に「歴史問題」について日本を「言い付けた」ことがある。外国を歴訪しては「日本のワル」を先生に言い付けまくっていた。本人は得意然としていたが、国際社会では嘲笑を浴びせていた。それにも懲りず、ブッシュ大統領との首脳会談で、懸案はそつちのけで、日本のワルを言いつけ、また嘲笑された。安部首相との首脳会談でも、四十分も時間を空費して、肝心の共同声明が出せなかったという。

実は、韓国が最も嫌うのは、外国から馬鹿にされることである。まともな反論に対しては、ムキになって立ち向かえるが、国際社会からの嘲笑には、先進国部分には堪えがたいものがある。これが、ボデーブローとして、後進国部分までも揺さぶっている。

イスラムと似る原理主義

歴史的な発展段階がどの辺にあつたかという難しい問題はさておき、李氏朝鮮が教条主義的な朱子学で凝り固まっていたのは事実である。いわば、儒教本家の中国よりも厳格な原理主義で、今日のイスラム原理主義に通ずる。日本の関与がなければ、韓国は今でもイスラムの段階に留まっていたかも知れないのだ。

その頃、日本は同じ儒教でも修正主義的な陽明学が盛

んで、鎖国の中にありながら、ヨーロッパを文明や技術を受け入れていたのと大違いである。

教条主義では、教理に合わせて論理展開する。現在のように、韓国にとつて「都合のよい歴史観」を形成するにはもつてこいの土壌である。これが韓国の後進国部分を理論的に支えてきた。しかし、これ以上、自国に都合な歴史を主張し続けるためには、学問的な孤立を選択するしかない。このことは日本の「心地よい歴史観」でも、まったく同様である。これらの「歴史観」は学問ではなく宗教なのである。それが通用するのは局地だけであることを承知しなければならない。

韓国にとつて、原理主義的な歴史観をこれからも主張し続けることは、もはやできないであろう。ただ、ひとつの逃げ道は、より遅れた北朝鮮を抱え込み先進国化に背を向けることである。

親日派への報復の悲喜劇

盧武鉉大統領はどこかで先進国化を拒んでいる。

韓国の上層階級は、日本支配下で実効支配を担っていたグループが引き継いだ。だから建前は反日であるが、本音はさほどでもない。それよりも朝鮮戦争の悲惨さによる反共が強烈であった。特に朴正熙大統領以来の軍事政権が、激しい反共意識を持ち、その反動で、決して反日ではなかった。酒席で日本の演歌を歌う朴正熙がどう

して反日で有り得るか。

それが軍事政権に痛めつけられた後進国部分にとつては気に入らない。野党ウリナラ党に朴大統領の娘、朴槿恵がいて、次期大統領を伺う距離にいることもあるが、盧武鉉は本気で歴史を裁き始めたのである。

いわば、日本支配下や軍事政権支配下で甘い汁をすった者の子孫を暴きたて、その権益を抹消しようとしたのである。そして悲喜劇を生む。親日派攻撃の先頭を切っていたヨルリン・ウリ党議長長の辛基南が、実は、憲兵の子孫であったとわかり真つ先に失脚してしまった。

ちなみに、韓国では親日派とは極悪人の代名詞である。

北朝鮮への親近感と本音

後進国意識は先進国部分への僻みであり、先進国化を主導した軍事政権に対する恨みである。それは必然的に、敵の敵、すなわち北朝鮮に対する親近感を生む。だから二〇〇〇年の南北首脳会談が韓国を駄目にしたとの意見がある。それは発展途上段階を終えて、やつと先進国化が実現したのに、民族同士の民族主義的を旨とし、逆戻りする盧武鉉の路線を決定づけてしまったというのである。

しかし、韓国国民なら誰でも知っている。北に近づくことは、自らの生活水準を引き下げることだと。民族統

一や民族同士は建前に過ぎず、本音は先進国部分を如何にして維持し伸ばして行くかにあることを。反日や反米を強めれば、韓国は北朝鮮や中国に近づくしかない。それを先進国部分が好むはずがない。

韓国は中国の属領

韓国が中国の一部だったことを韓国人は誰も認めない。想像さえしたことがないようだ。しかし、中国はチベットや新疆地域を自国領に取り込み、台湾も自国領土だと主張している。チベットや台湾が韓国とまったく同じく清の属領だったことから見れば、清を継承した中国の意識では、チベットと同様に韓国も中国領土である。

いま、中国は東北工程と称して、高句麗や渤海の歴史を中国史に編入している。これに対して韓国は猛反発中である。

そんな中で、盧武鉉大統領が東北アジア均衡論を持ち出した。ロシア、中国、日本、米国の真ん中に存在する韓国が、地域の調整者として国際政治を取り仕切ろうとの考え方である。当然、韓国の国民には受けの良い発言である。しかし、かつてポーランドが同様なことを唱え、ロシアとドイツに分割されてしまった歴史を知らないであろうか。

中国は甘くない。韓国が北朝鮮に近づけば、中国は韓国を含めて丸ごとその領域に取り込むであろう。だから

自国にしか通じない都合のよい歴史観は国を誤る。

戦時作戦統制権返還問題

戦時作戦統制権を返還しろと盧武鉉大統領は本気で米国に要求した。歴代の大統領もその返還を口にはしてきたが、本気で要求したことなどなかった。これに対し、折から米軍世界戦略再編中のラムズウエルド国防長官が乗ってきた。二〇一二年までに返せと言うなら二〇〇九年までに返しなせよと。

これには韓国側がびっくり仰天した。返還に伴い発生する費用が国防予算の十年分にも相当し、とても現実的とは考えられないからである。「殿ご乱心」とばかりに、歴代の軍部首脳や外交官の〇Bが集まり、延期を諫言するが、盧武鉉大統領は北朝鮮と仲良くすれば良いと泰然としている。

そこに北朝鮮のミサイルや核の実験が相次いだ。首都ソウルが北朝鮮から百五十キロしかない韓国が、北朝鮮を刺激したくないのは当然であるが、米軍なくしては朝鮮戦争の二の舞である。もう、盧武鉉には任せられない。

先を争って逃げ始めた与党議員

レイムダック化した盧武鉉であるが、韓国大統領の権限は強大である。特に、人事については専決権が与えられている。潘基文外相が国連事務総長に選出されたこと

に伴う後任人事で、またコードの合う(思想の合う)反米派を起用した。ヤケになって、反米を表に掲げたようなものである。憲法裁判所の長官にもコード人事として全孝淑女史を固執して、野党の猛反対を受けている最中である。

これには与党のヨルリン・ウリ党もあきれ返った。いまや、与党議員が先を争って盧武鉉の舟から逃げ始めている。

米国はいずれ単独行動主義をやめ、世界の憲兵役を降りて、モンロー主義に復帰するであろう。その時、韓国は北朝鮮とともに中国に付かざるを得なくなるのである。そんなことはあるまい。韓国の先進国部分が健全であることを信じていたい。そのためには、日韓の確固たる友好関係が絶対に必要である。

